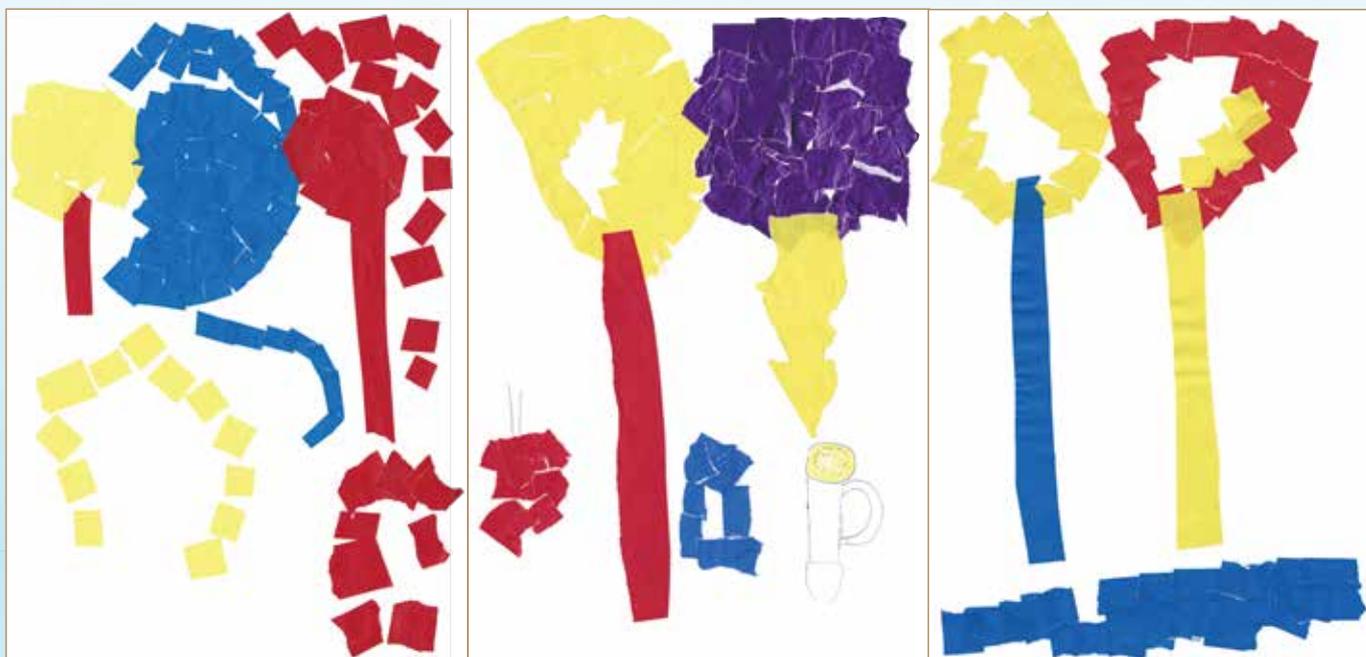




ゆたか福祉会キャラクター  
ゆたかめくとみらいちゃん



# 障害者の ゆたかな未来をめざして



「花火と海の絵とビールのんでいる所」  
トライズ 大塚 国晃さん  
※紹介が11ページにあります。

## CONTENTS

- ▶ 私達の実践  
～地域でのあたりまえの暮らしを広げ・支え続けて～ ..... P2～3
- ▶ 平和への願い ..... P6～7

2024年9月10日 毎月1回10日発行 一部200円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3  
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <https://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・  
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

## シリーズ 私たちの実践

## 地域でのあたりまえの暮らしを広げ・支え続けて③

## ゆたか通勤寮の実践と職員集団に問われているもの

1. 自立支援法施行による  
事業移行の際にゆたか  
通勤寮のとした選択

2006年自立支援法が施行され、2012年4月、知的障害者ゆたか通勤寮は、宿泊型自立訓練事業ゆたか通勤寮と相談支援事業ゆたか通勤寮の2事業へと移行しました。生活訓練と就労支援を行う宿泊型自立訓練事業、地域移行後のアフター支援を担う相談支援事業の2事業のセットが必要と考えたからです。

通勤寮を卒業しアパート暮らしをはじめても、様々に行き詰まり、何度も通勤寮に戻って再出発をされる仲間も何人もあります。今回はそのうちの一人、田中恵子（仮名）さんのことを取り上げます。

## 2. 卒寮式で

通勤寮には行事として卒寮式があります。その年度中に地域移行した利用者が、3月後半の時期に通勤寮を卒業するその姿を祝う行事です。卒寮者は一人一人感想を述べますが、恵子さんは卒寮の言葉と詩を綴りました。

【卒寮の言葉 私が卒寮式で  
みんなに伝えたいこと】

私は2才のときから施設にいて、18才になったときに通勤寮に入りました。施設のと看、よく思っていたのは、私の親はどこに在るんだらうということでした。18才になって施設を出るときには、とても強く思いました。親の家へ帰る人もいたからです。私には帰りたくても帰る家がありませんでした。だから、施設の後、どこに入るかを決めるときにはとても心細かったです。

施設の誰かが決めて通勤寮に入ることになりました。いつも誰かが決めてくれました。

通勤寮を出てアパート生活になりました。もう集団での生活は嫌でした。私は自分で自分の生活を決めました。アパート生活は私の夢でした。ドラマに出てくるような生活ができると思っていました。でも、実際は違っていました。楽しいこともあつたけど、こころぼそくて、さみしくて、つらいこともありました。

でも最初はなんとかやっていったと思います。そのうちに、なんとかやっていけなくなったことがありました。もう駄目だ、そう思ったことは何度もありました。それは、お金のことや友達関係の悩みのことです。もっと困つたのは職場でのトラブルのことでした。私は、そのたびに通勤寮に相談しました。もっともっと早く相談していれば、もっとよかつたのにと職員に言われましたが、今はわたしもそう思います。何度も何度も困って、何度も何度も通勤寮に相談して、何度も何度も苦しめたけど解決できました。

困つたことがあるとき、私には相談できる場所や人がいることがわか

りました。今の私には通勤寮が実家のように思えます。通勤寮はそんなところですよ。わたしたち施設出身者には、頼りたくても頼れる親がいません。だから、施設の後すぐに社会に出るよりも、通勤寮に入った方がいいと思います。それは、ここには相談できる職員がいるし、失敗しても戻つてこれる場所だからです。

私は通勤寮に入つてよかつたと思つています。だからみなさんにすすめたいと思います。私の家はここです。心細く思っているみなさんにもそうなつてほしいと思います。みんなが通勤寮に来るといいと思います。



### 【卒寮式に臨んで 辛いことも悲しいことも】

田中恵子

辛いことが いっぱいあった  
涙が 出てきて 止まらなかった  
悲しいことも いっぱいあった  
泣いても 泣いても  
悲しみは消えなかった  
大声を出しても  
どうにもできなかった  
パニックになっても  
何も変わってはいなかった  
きつとできると 思っていた  
私は大丈夫だと 思っていた  
今度はうまくいくと 思っていた  
いいと思うことは 全部やった  
引越もしましたし 話し合いもした  
一生懸命考えて  
相手のことを思ってやった  
でも うまくいかなくて  
大変なことになっちゃった  
仕事も お金も 生活も  
いいかげんに 私もわかっていて  
もうダメだって  
もうやめなきゃいけないって  
でも、自分で 自分が  
とめられなかった  
私だけが 空回りしていた  
私だけが 浮いていた  
私だけが 困って

私だけが 追い詰められた  
もう、何もかも 全部のことが  
どうでもよくなった  
仕事も 生活も 自分の将来も  
考えられなくなった  
全部をやめて 消えて  
なくなりたかった  
職場にも 迷惑をかけた  
仕事にも 行きにくかった  
動けない  
動く元気がない  
何もやる気がおきなくなった  
辛かった  
悲しかった  
さびしかった でも やつと  
今は違うと思えてきたやり直したいと  
思えるようになった  
嫌なこと 辛いことは消えないけど  
もう一度 がんばろうと思う  
この卒寮式での言葉と詩に対して、  
通勤寮は下記のような卒寮証書を贈  
りました。

### ゆたか通勤寮卒寮証書

通勤寮利用は三度目でした。

今回の通勤寮利用は苦しいことの連続でした。明るく振舞っていたあなたでしたが、精神的にも経済的にも人知れず耐えて、耐え抜くことが必要でした。その苦しさを乗り越えてきたのはあなたが自分の人生をあきらめないという強い気持ち、やり直したいという強い願いによるものでした。

あなたは明るさと優しさ、そして賢さを備えた女性です。

職場の上司、関係者から良くしてもらっているのはそうしたあなたの性格や人格に自然にこたえたいと思うからでしょう。今回の利用では、通勤寮はあなたが休息できる時間と場所を提供しただけでした。そうした利用があってもいいと通勤寮は考えています。

誰の人生も柔らかな人生は一つもありません。辛い人生、苦しい人生を明るく、くじけずに歩いていると他人には平穏な人生に見えるだけです。

あなたはもうそうした経験を一つ、二つと乗り越えてきました。本当によく頑張りました。わたしたち職員はあなたが苦しみから逃げず、立ち向かった姿を見て、自分たちもあなたのように生きたいと願い、自分自身を振り返っています。あなたの姿を見ると自分たちも頑張ろうと思うのです。きつと他の利用者たち

も同じだろうと思います。あなたの頑張りは人間として美しいと思います。再度の卒寮にあたって、心より、おめでとうの言葉とともにありがとうございます。という感謝を伝えたいと思います。

こうして、恵子さんはまたスタートを切りました。

### 3. ゆたか通勤寮に問われて

いるもの

#### ゆたか通勤寮の役割と機能

利用者、卒寮者のトラブルや葛藤、生きる姿を見るにつけ、私たち通勤寮職員はよくこう思います。「宿泊型自立訓練事業とは何なのだろう」「地域生活定着支援とは何なのだろう」と。

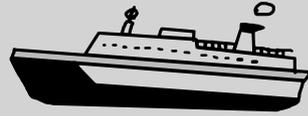
「それは利用者、卒寮者がゆたか通勤寮に何を求めているのか」という問いです。

「もし、利用者、卒寮者が、ゆたか通勤寮に何らかの役割や機能を求めているとしたら、それを託された職員として、私たちは何をすればよいのだろうか。少なくとも自分は、それを果たすことができているのか」を問われているのだと感じます。

宿泊型自立訓練・相談支援

堀田豊和

# 暮らしの中に彩りを



## 日帰り琵琶湖クルーズ

◆リサイクルみなみ作業所◆

5月25日土曜日、利用者・職員43名で日帰り旅行へ行ってきました。「せっかくなので少し遠出をしたい」と、朝の集合時間を早くして、帰りの時間も延長して、色々ご協力をいただきつつ、「琵琶湖ミシガンクルーズ」を楽しんできました。

当日は快晴のお天気で、琵琶湖をバックに記念撮影。クルーズ船が岸にやってくると「あれに乗るのかな…」とワクワク。船に乗り込むと、まずは地元産の食材を生かしたランチビュッフェ。お皿に各々食べたいものを自分で盛り付けて、楽しく会食。好きなメニューをメインからデザートまで沢山食べてお腹一杯になりました。「おいしいねえ」と皆さん大満足。笑顔がたくさん見られました。

食後はグループごとに船内を散策。2階、3階と上がることができ、船上から見る湖の景色はとて良く、爽やかな風に吹かれて気分もリフレッシュ。また、船内では歌のステージもありノリノリで楽しめました。

毎日沢山のペットボトルを分別し、資源化に汗を流す仲間の皆さん。「琵琶湖へ初めて行った」という仲間もいて、日々の仕事をねぎらいながら親睦を深め、しっかりとエネルギーをチャージしてきました。



## 喫茶外出

◆デイサービス宝南◆

6月より、皆さんがかねてより希望されていた喫茶店へのお出掛けを再開しました。場所は聚楽園公園。事業所から車で20分ほどの所にあり、公園内は広く、緑でいっぱいの場所です。

「飲み物だけでいいかな」とメニューに目を通すと、そこには美味しそうなスイーツが…。外を歩いて運動したし、「食べておこなきゃ損だよ」ということで、ケーキ等のセットを注文する方が多かったです。普段とは違った空間でのティータイムという事で、口もお腹も大忙しの楽しい時間となりました。



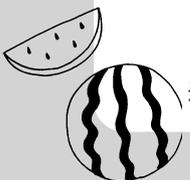
## スイカ割り

◆デイサービス宝南◆

7月19日と27日にスイカ割りを行いました。恒例行事という事で皆さんも楽しみにされていたようで、お休みが続いていた利用者様も「行こうかな」と来てくださいました。

昨年は最初の方が一刀で決めてしまわれたので、今年は小玉サイズを複数準備し、いざ実践。共生型の利用者様は目隠しをして行いましたが、あっという間にパカッと割れてしまったので、慌てて次のスイカの準備をし続行。

要介護の利用者様は、目隠しをせずに行いましたが、これが意外と当たらない。寸止めなどで練習するも、本番となると緊張してしまうのか、力みすぎて外れてしまうのか…。この不思議な緊張感、来年も楽しみたいです。





## 「くりのき班」一泊旅行

◆ゆたか希望の家◆

7月3日～4日に「くりのき班」の仲間15名、職員9名で一泊旅行へ行ってきました。コロナウイルスの影響で約4年間、この一泊旅行の実施を控えていましたが、ようやく少しずつ収まり、今回の旅行となりました。

旅行前日まで天気が下り坂でとても心配でしたが、当日は晴天に恵まれました。まず旅行の最初の行き先である三重県多気町にある「Vison (ヴィソン)」へ。ここはこの数年、三重県の観光スポット No.1とされている場所です。とても景色も良く、素敵な場所での昼食となりました。豪華なイタリアンのランチコースで、仲間の皆さんも満足されていた様子でした。

その後は伊勢市へ入り「おかげ横丁」の散策と、仲間の皆さんはお土産を購入。名古屋では見られないお土産が購入できて、とても嬉しそうな笑顔を見せていました。

その後は今回の宿泊先である「ホテル一井」へ。このホテルは以前にも「くりのき班」で宿泊した事があり、夕食は豪華な懐石料理を頂きました。食後はみんなでカラオケを楽しみ、みんなで笑い、みんなで盛り上がる夜となりました。

一夜明けて朝食後は、2日目の目的地「伊勢忍者キングダム」へ。忍者キングダムでは、施設内の散策とお土産の購入をしました。個人個人で好きなお土産を購入し、ここで頂いた昼食は「和定食御膳」。皆さんとても美味しそうに召し上がっていらっしゃいました。

今回の旅行に初めて参加した職員も居ましたが、みんなで協力して、とても充実した旅行になりました。仲間の皆さんからも施設に戻ってから「お土産買ったよ!」「楽しかった!」「また行きたい!」などの声を聞く事ができ、楽しんで頂けた様子でした。

今回の旅行では、職員も施設では見られない仲間の笑顔や様子などに接することができました。このような経験を踏まえて、今後の仲間の支援に役立てていきたいと思ひますし、仲間の皆さんも次回の旅行に向けて、今まで以上に仕事や運動に取り組めていけると思ひます。



## SDGs の目標をめざそう ～はじまった 学びや取り組み～

その11

第2回プロギングを  
開催しました



ゆたか福祉会SDGs委員会の主催で、7月20日に第2回プロギングを開催しました。プロギングは英語の「ジョギング」とスウェーデン語の「拾う (Plocka Upp)」を掛け合わせたスウェーデン発祥のジョギングをしながらゴミ拾いをするスポーツです。健康促進に効果的なのはもちろん、ゴミを拾う事で環境問題に取り組める活動です。

今回も法人内事業所がたくさんある南区元塩町内で実施しました。地域の方にも参加を呼びかけ、法人内事業所からの参加者も増え、前回以上の41名の方が参加されました。

当日はとても暑い中でしたが、参加者のみなさんはとても頑張り、前回の倍くらいのゴミが集まりました。元塩5丁目の歩道では、歩道と側溝に空き缶やペットボトルが大量に落ちていました。女性の利用者さんが「私が拾ってやる!!」と側溝に降りて、どんどん拾ってくれました。

プロギングは、たくさんの人と一緒に楽しく活動に参加をしているうちに視野が広がり、社会貢献活動への一歩を踏み出すきっかけになる取り組みです。熱中症予防で冷たいお茶も準備して行いましたが、次回はもう少し涼しい時期に行きたいと思っています。

今回はたくさんのご参加ありがとうございました、また次回もよろしくお願ひします。

# 平和への願い

先回の「平和への願い」では、たくさんの皆さんに支えられながら、ゆたか作業所と出会い、働き、新天地へと向かわれたアフガニスタンのファルザドさんについて紹介しました。今回は“ゆたか”の内部の取り組みについて紹介します。

## なるみ作業所



### 6.7 平和行進 豊明

6月7日（金）に豊明平和の会が主催するよあけ平和行進が開催されました。当日は集合時間の都合もありなるみ作業所からはホームにおすまいの利用者2名と職員での参加とさせていただきました。

当日は天候にも恵まれ、カラット（旧豊明市唐竹小学校）発着の約2.5kmを平和への願いをアピールしながら地域の方々と一緒に進みました。出発

時はやや曇っていたものの湿度が高く、また歩いているうちに太陽が出てきて気温も高くなりました。休憩のたびに水分補給を意識的に行い、無事ゴールまで歩ききることができました。

作業所と地域がこれまで大事にしてきた関わり大切さと有難さを感じた平和行進でした。



## あかつき共同作業所



### 6.9 平和行進 西区コース

6月9日、あいち平和行進西区コースに、仲間2名、家族2名、職員1名で参加しました。毎年、浄心駅から黒川駅へ向かうコースがあったのですが、そのコースがなくなっており、急ぎよ名古屋駅方面へ向かう行進に参加。歌を歌ったり、ピース・コール「ノーモアヒロシマ・ナガサキ、ノーモア・ヒバクシャ」と訴えたりしながら長い距離を歩きました。

参加した仲間の一人は、人前で大きな声を出すの

は苦手ですが、自前で折り鶴のTシャツを着て、自分なりの方法で平和への願いを訴えていました。

毎年参加してきた中で、特に今年は全体的にコースも減ってしまい寂しさも感じました。しかし形は変われど、「平和への願いは変わらない」ことは訴え続けること、続けることが一番と感じました。みんなのできることを頑張っていきましょう！

佐野 浩之



## ゆたか作業所



7.29～7.30

### 「第44回 道徳平和盆踊り大会」へ出店参加

昨年から再開した平和盆踊りで今回も出店で参加しました。2日間にかき氷、ポップコーン、光ものおもちゃ等合わせて、約14万円売り上げました。職員は2日間延べ20名が参加し、1日目は11名、2日目7名の仲間家族のご協力もいただき、大会を盛り上げました。

“ゆたか”としてこの地で事業がスタートして以来、ずっと地域連携や平和への行動として大切に、参加してきた「平和盆踊り」です。ただ、ゆたかだけでなく、実行委員会の参加団体全体の高齢化や人員不足が顕著になっているのが現状です。盆踊り大会に限らず「どんなことであればいいのか」の検討も必要になっています。暑い中、本当に皆さん、お疲れさまでした。

7/12

## 自治会連合会「平和学習会」

### <はじめに>

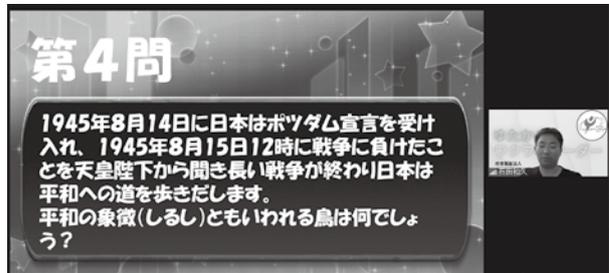
今回の取り組みのきっかけは、平和行進南区コースの中止です。コロナ禍以前は毎年、たから診療所からゆたか作業所隣地の泉楽公園まで、大勢の仲間が平和を願い、歌い、そして地域にアピールする取り組みでした。これをきっかけに8月の終戦記念日までの間に各事業所で「平和学習」を行っていました。しかし、コロナ禍の中で途絶えた影響や、日々の忙しさを理由に「平和について考える機会が減ってきてはいないか」と危機感を感じたからです。

### <踏み出せば広がることに自信を ～みんなで創意工夫しながら～>

法人内「運動委員会」の会議で提起したところ、通勤寮やかさでらホームでは「千羽鶴を作って原水爆禁止世界大会へ届ける取り組みをしている」との情報を知りました。「このような取り組みを全体に広げたい」ということで、自治会連合会の中で「平和学習会」を行うことになりました。

その題材を探している時に、今度は「広島平和記念資料館」のサイトから、「21世紀サダコストーリー」を見つけました。小学六年生の少女マイちゃんが、平和記念公園の前で折り、鶴のモデルとなった被爆者の「佐々木貞子さん」を、現代版で体験する不思議な物語です。

折り鶴にこめた平和への願いなどを、分かりやすく伝える物語ですが、このストーリーには効果音もなく、朗読が必要でした。「どうしようか？」と考



えた時に、「本部で働いている女性職員の方の声が聞きやすい」ということで、お願いすることになりました。快く協力して頂いた職員さんに感謝です。

### <役員も一人一役>

また、自治会連合会会長の石橋さんは、所属しているきょうされん利用者部会が出している「構成詩「戦争はやめて」」を紹介。障害のこと、ウクライナのこと、優生思想のことに触れている構成詩です。

朗読はあかつき共同作業所の竹原さんをお願いしました。石橋会長には「構成詩を作った時の思い」を語っていただきました。希望の家の松岡さんからは豊明コースの平和行進に参加した報告も行いました。

また折り鶴への呼びかけや、「運動委員会」責任者のつゆはし作業所石田さんからは平和クイズもありました。盛りだくさんの内容で、予定していた時間も足りないくらいの学習会となりました。

### <取り組みを終えて>

今回の「平和学習会」は、平和行進が少なくなる中、「各事業所で平和について考えるきっかけになれば」という思いでの企画でした。折り鶴もそうですが難しく考えず、できることから行って、またそのことを全体で共有・共感できたら、これも一つの運動になるのではないかと思います。

自治会連合会担当  
佐野 浩之

# 命を守る

## 「注意1秒、ケガ1生」を肝に銘じて

昨年度、法人における交通事故報告は30件、今年度は8月までに人身事故も含めて16件と、昨年度を上回るペースで起きています。運転する際はその責任を自覚し、事業所では「安全運転講習」を取り組みましょう。

今回は講習に参加した職員の「声」と、「株式会社アトコ」様からのメッセージを紹介します。

### 参加した職員の声

#### ゆたか作業所

白井 結菜

普段当たり前に通っている道にも、沢山の危険箇所があることが分かりました。勝手な思い込みや解釈だけでは、事故に繋がってしまうため、常に「かもしれない運転」をして、未然に防げる事故は減らしていきたいと思いました。自分の事だけ考えて運転するのではなく、周りの人の事も考えて運転するよう意識していきたいです。車に乗る機会が多いので、安全運転を心掛けたいです。

#### つゆはし作業所

加藤 沙彩

私は午前中に運転、午後から適性検査と座学でした。岐阜出身ということもあり、名古屋の道を運転することは慣れていませんが、業務の中で納品に行ったり、自主製品等の配達に行ったりしているため、入職して3、4か月、まだ緊

張はしますが慣れてきました。

そんな中で安全運転講習で、少しの緊張と共に運転をし、「知らない道だとは思うが落ち着いて走れている」「速度を出すところは出して、落とすところは落とせている」などの講評をいただき、少し安心しました。

適性検査は、個人的に残念な結果でしたが、出た結果や注意点を心にとめ、漫然運転にならないように注意して運転していきたいと思っています。

#### ゆたか生活支援事業所みなみ

和田 好太

当日は、講師の方に助手席に座ってもらい運転をしました。自動車教習所の教官の方と聞いて少し緊張していましたが、幸い優しい方で、特に問題なく運転を終えることができました。ただ「一時停止できちんと止まれていなかった」という注意は受けました。

「ゆたか福祉会の車に乗っている」という自覚を持ち、これからも安全運転に努めてまいりたいと思います。貴重な講習を受けることができて為になりました。



### 株式会社アトコ様より

皆様、こんにちは！毎年安全運転講習を行わせて頂いている株式会社アトコの横井です。

近年、世間は企業の不祥事や法令遵守に対して大変厳しい目を向けるようになりました。一昔前では何の問題でも無いような些細な事でも、企業が一つ消えてしまうような重大事態に繋がります。そんな時代だからこそ、運転を通して、コンプライアンスや知識と意識の重要性を考えて頂く機会になればと考えております。

また、運転に関しては、業種によって運転の仕事や必要な予備知識が異なってきます。運転ができるかだけでなく、現場等で未永く「より安全な行動の執れる職員」でいて頂けるようお手伝いしたいと考えています。

今後とも、弊社を宜しくお願い致します！



# 優性保護法最高裁判決

旧優生保護法の規定により不妊手術を強制された方たち（原告）が、国（被告）に対し、この規定が憲法に違反しており、国会議員がこの規定を立法したことや、厚生大臣がこうした不妊手術を推進したことは違法であるとして、損害賠償などを求めていた裁判で、7月3日、最高裁判所は原告の訴えを全面的に認める判決を下しました。

判決はまず、優性保護法の強制不妊手術の規定は、「自己の意思に反して身体への侵襲を受けない自由」を保障した憲法13条と、「法の下での平等」を定めた憲法14条に違反していたと指摘。そのうえで、最大の争点となっていた「除斥期間」（不法行為から二十年が経過した時は被害者の損害賠償請求権は消滅するという民法上の規定）の適用に関しては、不法行為を行った国がその適用を主張し自身の責任を免れようとするのは「権利の濫用」であり、「著しく正義・公正の理念に反し到底容認することができない」と断罪したのです。

この判決を受け、7月17日に岸田首相が官邸で原告等と面会し、政府を代表して謝罪するとともに、裁判の早期終結や、現行の一時金支給法に変わる新たな補償法の創設、二度と同じ過ちを繰り返さないための検証や、障害者に対する偏見・差別の根絶に向けての取り組みを強化することなどを約束しました。



## 旧優生保護法最高裁判決に参加して

ゆたか生活支援事業所尾張 大田 哲嗣

7月3日、旧優生保護裁判最高裁判決の傍聴行動に参加しました。全国から最高裁には1000人近い方が集まりすごい熱気でした。傍聴に外れ、裁判所まわりで待っていた多くの人たちに、勝訴の一報が流れた時には、大きなよめきと、あちこちから「よかった」「むくわれた」という声が挙がりました。

判決内容も「除斥期間について認めない」をはじめとした、今までの国の責任を取らない態度を批判し、すべての被害者の救済に向けた画期的な判決でした。いろんな報告集會に参加しましたが、今回は「国が大きく変わった」ということを身近に感じ、とても感動しました。また、今まで健常者に合わせてきた裁判の在り方が手話通訳や要約筆記など、情報保障の問題も多く提起され、障害のある方が裁判に参加する意義も大きく変わった裁判でもありました。

名古屋で提訴された尾上敬子さん、一孝さん夫妻の裁判にも参加させていただき、ごく当たり前の「子どもを産みたい」という権利を踏みにじられ、悔しい思いをもたれ、闘い続けられたご夫妻の一言一言のことばと想い、そして、国の障害者の人権を軽視している言動に、障害者の権利を守るためにもこの裁判の重要性をととても感じています。

今回の判決を受けて、国・県にもこの問題を曖昧にせず検証し、実態を明らかにし、被害者への謝罪と賠償、再び問題が起こらないような取り組みを働きかけていくことが次の運動だと思います。仲間たちが地域で自分らしく暮らし続けていくためにも、これからもこの裁判の支援に関わっていきたいと思います。

設楽福祉村

共同墓地盆供養祭

共同墓地管理委員会開催

2024年8月2日(金)、澄み渡る夏空の下、ゆたか保護者連合会共同墓地「盆供養祭」が大蔵寺で行なわれました。保護者連合会から矢満田会長代理、キラリンとーぶ家族会鈴木会長、法人から鈴木理事長、向幸子理事、キラリンとーぶ伊藤所長他、昨年納骨された鈴木峯保氏のご遺族が参列されました。

共同墓地「なごみの塔」は2002年建立し、毎年8月に供養祭を開催しています。コロナ禍により、昨年4年ぶりに再開し、今年もキラリンとーぶの皆さんによって大変きれいに清掃され、大切にされておりました。昨年度の納骨者は3名、今年は1名予定され、ゆたか福祉会に関わられた利用者、職員、家族のお名前が墓碑に記されていました。墓前と大蔵寺本堂での読経と焼香を行い、故人を偲んだひとときでした。

盆供養祭終了後、2024年度第一回管理委員会をキラリンとーぶで行い、昨年度の活動報告と今後について話し合いました。「共同墓地の存在を関係者の皆さんにもっと広めていこう」という意見が出されました。

保護者連合会担当

萩原千秋



賛助会員新規加入者更新者(芳名一覧)

(6月24日～7月31日 手続き分)

順不同 敬称略

- |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 松岡 政子     | 高橋 正教     | 大橋昭人事務所   |
| 田畑 博      | 鈴木 隆介     | 大橋 昭人     |
| 社会福祉法人    | 土井ちづ子     | 及川 博子     |
| たからばこ     | 今井 信彦     | 神田すみれ     |
| 原 史江      | 浅田 悦男     | 早川 剛史     |
| 浅海 正義     | 片山美恵子     | 柳 進       |
| 山田 清文     | 内田紙店      | 小西 智江     |
| 野間 聖子     | 鈴木 徹朗     | 谷川 修      |
| 清水 悦子     | おもちゃ図書館   | 小野 勝幸     |
| 川上 雅也     | ぴっこる      | 日鉄物産株式会社  |
| 村井智恵子     | 星屋 政司     | 浅野実千代     |
| トランコムMTS  | 特定非営利活動法人 | 桜軽金属工業(株) |
| 株式会社港営業所  | ひなたぼっこ    | 鏡味千代子     |
| 小野寺由里子    | 大橋利恵子     | 高橋香与子     |
| 高森 裕司     | らいぶ 施設長   | シタラ建材 伊藤光 |
| 戸塚やよい     | 井出 信男     | 渡辺 正春     |
| 池田 栄一     | 近藤 直子     | 株ユニオンサービス |
| 鈴木 剛治     | 早川 久代     |           |
| 毛利 登      | 伊藤 順子     |           |
| 近藤左千夫     | 奥谷さと子     |           |
| 東洋病院      | 糠谷 彰洋     |           |
| 設楽測量設計(株) | 柳川 将義     |           |
| 加藤 博俊     | 柳川オリエ     |           |
| 社会福祉法人    | 神谷 恵子     |           |
| あずま福祉会    | 小田切龍三     |           |
| おおぞら作業所   | 山田 哲也     |           |
| 平岡 哲      | 江坂 文恵     |           |
| 當間 弘子     | 前田 勝彦     |           |
| 中日印章印刷    | 加藤 信子     |           |
| 林 克己      | 藤田 秋雄     |           |
| 中武 繁治     | 藤田 明美     |           |





7月

- 3日(水) 新管理職合同研修
- 5日(金) 食と健康推進委員会
- 8日(月) 事業運営推進会議
- 9日(火) 保護者連合会定例会
- 10日(水) 広報・ホームページ編集委員会 / 法人安全衛生委員会
- 12日(金) 第7期総合計画推進委員会
- 18日(木) 安全運転講習 / 消費税訴訟判決
- 19日(金) 常勤及びパート職員研修
- 22日(月) 援助担当者会議 / 研修部会議
- 23日(火) 職員ハンドブック改訂委員会
- 24日(水) 副所長会議
- 25日(木) 作業改善ゼミ

## 表紙の作者紹介

### 「花火と海の絵と ビールのんでいる所」

トライズ 大塚 国晃さん



絵を描くことが好きな大塚さん。「広報の表紙を挑戦してみたら」と声をかけてみました。翌日には「できたよ。山下清のようにちぎり絵にしてみた」と、完成した作品を見せてくれました。

大塚さんは普段は大人しくあまり喋りませんが、トライズの清掃の仕事はきちんとやります。そして細かいところにもよく気が付きます。みんなが飲むお茶の準備や食事の準備の手伝いも進んでやり、厨房の食事を作っている職員にも感謝されています。

いつも早く通所して頑張っている大塚さんの紹介でした。

## 正規採用職員 紹介

☺ 趣味・好きなことをお聞きしました



ゆたか生活支援  
事業所あつた

佐々木 美沙

6月より「生活支援事業所あつた」に配属になりました佐々木です。以前の職場でゆたか福祉会と少し関わりがあり「働いてみたい」と思い入社させていただきました。

働いてまだ2ヶ月ですが、優しい職員の方と楽しい仲間「力をもらっているな」と感じます。勉強になることもたくさんあるので「いいな」と思ったところは吸収して、成長に繋げていきたいと思っています。

未熟な点多いかと思いますが、これからどうぞよろしくお願致します。

☺ お休みの日にゆっくり  
過ごすこと、音楽を聴くこと

### 広報・500号

2024年9月号(2024年9月10日発行)

定価1部200円

法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協年会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協年会費 = 年間1口6,000円、  
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884  
・中京銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

# その人らしく働く暮らし

Vol.121

## 仲間

好きといえる仕事を見つけたよ！  
ホームで仲間と仲良く暮らしたいよ！

あかつき共同作業所 萩原宏美さん



萩原さんは43歳。名古屋市立守山養護学校高等部（現在の名古屋市立守山特別支援学校）

を卒業し、1999年4月にあかつき共同作業所に入所されました。

仕事を頑張るモチベーションは「給料を貯めてデイズニランドへ行くこと」です。ウキウキ班での主な仕事は自動車部品の型抜でしたが2021年から廃品回収が始まると、「廃品回収の仕事をやりたい」と思うようになりました。

ある時「A子さんみたいに軍手を上手につけたい」という場面がありました。一緒に働く仲間の姿から「やりたい自分」を描いたように感じました。

仕事を通して見えた大きな変化は、人との関わり方です。他者からの言葉かけに対して否定的で、強い言葉や態度で攻撃的な場面が多かったのですが、仕



エプロンと軍手の作業スタイル

事の中で褒められ、認められることが増えると、気持ちや人の距離に余裕ができたように思います。話を素直に聞き、自分の思いも表し、人を思いやる姿や折り合いをつける場面も増えてきました。

「ケアホーム北野」でも、集団生活のルールや人との関わり方などを学んでいます。衝突することもありますが、生活を共にする仲間とは「仲良く暮らしたい」という思いを持っている萩原さんです。

河原京子

## 職員

「つなぐ」「つながる」ことが大事  
ゆたかな未来を目指して

ゆたか相談支援事業所あおなみ 都築真二



ゆたか福祉会との出会いは、福祉士実習でした。そこで働く仲間た

ちの笑顔、そして誇りを持って仕事に取り組んでいる姿に心惹かれ、2002年4月に入職。早22年が経ちました。

生活施設（ゆたか希望の家）・日中活動の場（つゆはし作業所）そして相談支援分野で働き、相談支援専門員として12年目を迎えます。どの職場も支援の本質は一緒で、利用者中心支援です。利用者がゆたかな人生を歩めるように、寄り添い・思いを汲みとり支援できているか、支援の中心は利用者になっているか、実践の振り返り、自己覚知も時には大事にできました。

利用者のその人らしい生活、なにより心のゆたかさにつながった時、笑顔が見られた時の支援の成果が自身の嬉しさとなり、私の仕事としてのやりがい・モチベーションとなっています。相談支援の実践の中で感じたこと・



共感を持って電話対応

重要な役割は「つなぐ」「つながる」ことだと思っています。相談員一人では利用者の思い・願いをかなえる課題を解決することは到底できません。必要な関係機関につきなぎ、それがそれぞれの立場で役割を担えるように、またチームで利用者中心支援とした同じベクトルを向いて支援できるよう、架け橋の存在としての役割も果たせるよう心がけています。本人のストレッチを大切に、利用者自身の支援の幅・輪を広げ、より支援の厚みができるようにしていきたいです。また、利用者から地域ニーズをキャッチすること、多種多様な関係機関のつながり・地域とのつながりで、より障害者にひらかれた地域福祉・社会を創れる一員として活躍できるよう日々精進していきます。